令和５年度第２回志木市社会教育委員会議録

日時　令和５年８月２９日（火）
午後２時
～３時３０分
場所　市民会館仮設会議室１

出席委員：竹前榮二、宮原正幸、有馬隆江、一ノ倉達也、市之瀬初男、
山下美香、野島悦子、前田喜春、荻島亜紗美、中村和子、
星野祐子（順不同、敬称略）
欠席委員：青木りえ、石井都、神谷惣治、鈴木民雄（順不同、敬称略）
市：生涯学習課　徳留主査、石川主任、吉田主事補

１　開　　会　　徳留主査

２　あいさつ　　竹前榮二議長
生涯学習課職員

３　協議事項　　進行：竹前榮二議長

（１）　小中一貫教育について　　説明：学校教育課　三好指導主事、亀和田主査
木村実小中一貫教育推進コーディネーター

学校教育課より説明
　小中一貫教育とは、小・中学校で目指す児童生徒像を共有し、９年間を通した教育課程を編成していく教育である。
　志木市では令和７年度より、市内全ての小・中学校で小中一貫教育を推進していく。推進の背景としては、自己肯定感の低下や不登校者数、暴力行為の発生件数が、学年が上がるにつれて増加する傾向がある。特に、小学６年生と中学１年生を比較すると、件数は増加する。
　その実態が生じている背景として、学校課題の複雑化、多様化や学習のつまずき、新しい環境に対応できない、いわゆる「中１ギャップ」が挙げられる。
　そのため小中一貫教育を推進し、切れ目のない連続した学習・生活指導を行うことで、中学校へ進学する際のハードルを下げることや、小・中学校の先生が情報を密に共有し、早い段階で、学習のつまずきに対応していくことで、課題を解決するなど、教育の質を向上させていく。

（委　員）志木市では中学校を選択できる利点があるが、それは無くなるのか。

（学校教育課）選択肢は継続する。他中学校への進学を希望する場合は、申出により可能である。
（委　員）　６年生の時に聞くのか。
（学校教育課）６年生時に通知し、本人の希望によって申請が可能である。
（委　員）　教育の質の向上とはどういうことか。
（学校教育課）例えば、中学校では数学で急に ｘ が登場し、抽象的な学習になり、子どもがギャップを感じやすい。小・中学校で情報共有を行い、どのような学び方をしてきたのか、どのようにこれから学んでいくのかを教職員が認識することで教育の質の向上につながる。
（委　員）　情報交換は現在でも行っているのではないか。
（学校教育課）行っているが、あくまでも引き継ぎとして共有している形である。１つの学校にすることでより柔軟に日常的に情報共有をすることが可能になる。
（委　員）　先生の負担は大きくなるのではないか。
（学校教育課）部活動や授業のコマ数を減らすことを同時進行で行い、負担が大きくならないようにしていくための検討を始めている。
（委　員）　志木市の教育水準は周りの市と比べても高いと思うが、その体系を壊す必要はないのではないか。
（学校教育課）学力の平均を見ると高い教科もある。しかしながら、「誰一人取り残さない教育」を実現していくためには、個々に合わせた教育を推進し、一人一人を伸ばしていく必要がある。
（委　員）　子どもの目線に立って、一人一人を大事にしようとしていることや、９年間を通した不安は解消されると思う。ただ、多忙な先生が多いため、先生に対してのサポートをしていくことが必要だと思う。例えば、保護者対応など、フォローする環境を作ることが良いのかなと思う。
（副議長）　大学までの一貫校に行きたい人は増えているのか。志木市は周りから見て、魅力的に感じるのか。
（学校教育課）中学から私立を選択するのは、中学校区や年度によって大きく異なるが多い時は１０％程度と聞いている。
（副議長）　私立の中高一貫校に行かせたい人が多い市ではないのか。
（学校教育課）私立の中学校に進学する児童が多いということは現状ない。ただし、例年一定数はいると認識している。
（委　員）　小中一貫教育は現状、県内でどれくらいの市が行っているのか。
（学校教育課）埼玉県では、現状は春日部市、日高市が義務教育学校を設置している。
（委　員）　市全体で進めているのは、どれくらいか。

（学校教育課）日高市と志木市が市全体で進めている。
（議　長）　　小中一貫教育を行っている学校では不登校は減っているのか。
（学校教育課）志木市では学校に通えるようにすることをゴールとしていない。中学校卒業後や社会人になったときに、今どういう力をつけておくことが大切なのかを考え、数字ではなくその子にとって何が学びやすいかで動いている。小中一貫教育で色んな先生たちと関わることで中学校への不安からくる不登校は減っていくと期待している。
（委　員）　　小中一貫型小学校・中学校の場合、校長はどうなるのか。
（学校教育課）それぞれのところに校長は置くが、統括校長を立てる。また月１回程度で話し合う機会を作っていく予定である。義務教育学校の場合は、校長は１人である。

（２）関東甲信越静社会教育研究大会について　　説明：石川主任

事務局より説明
　令和５年度県外研修として「第５４回関東甲信越静社会教育研究大会」の開催要項が到着。日程は、１１月２１日（火）、１１月２２日（水）で、場所は栃木県総合文化センターとなっている。前回会議にて１日目の全体会に参加予定であったが、２日目の分科会の方が良ければ変更は可能である。内容を見ていただき、参加の可否を本日の会議で確認したい。

（委　員）２１日、２２日で行きたい方にそれぞれ行くのか。
（事務局）どちらか１日で統一させていただく。
（委　員）２２日に参加した場合、会場がバラバラだが、どうするのか。
（事務局）参加したいテーマを聞かせていただき、対応する。
（委　員）分科会だと１０時からで現実的ではないのでは。
（事務局）現実的ではないと思うが、意見として聞かせていただきたい。
（副議長）川越の時は、２日とも電車で参加したが、分科会に参加したのは、２人だけだった。分科会は聞く中心であった。
（事務局）どちらの日程にするか意見を取らせていただく。２１日に参加でよいか。
（委　員）満場一致。
（事務局）現在、参加可能の委員は７名のため、行き方については検討させていただき、追って連絡する。

（３）市内文化財研修会について（田子山富士塚等）　　説明：石川主任

事務局より説明
　コロナ関連により、昨年は実施ができなかった、市内文化財研修会を１２月に実施予定である。田子山富士塚や村山快哉堂を回りたいが、ルートについては現在検討中である。本日の会議で、仮日程を決めたい。事務局の提案としては月曜日の午後を考えている。

（委　員）終わりは何時になるか。
（事務局）１時間半から２時間を予定している。天気が良ければ、田子山富士塚を登ることも考えている。
（議　長）１２月１１日はどうか。
（事務局）他の日程で意見はあるか。
（委　員）ない。
（事務局）仮日程として、１２月１１日（月）で進めさせていただく。豪雨の場合は中止になる。
（委　員）駐車場の問題もあるため、ルートは村山快哉堂から田子山富士塚の方が良いのではないか。
（事務局）その方向で検討させていただく。

（４）その他　　説明：石川主任

事務局より説明
　１０月２８日（土）に人権研修会で昨年度公開された映画で、島崎藤村の「破戒」の鑑賞会を実施予定である。会場は、いろは遊学館となっている。興味のある方は、ぜひ参加していただきたい。

４　　閉　　会　　有馬隆江副議長

次回会議：令和５年１１月２１日（火）関東甲信越静社会教育研究大会を予定